

## VUCA 時代における微生物検査技師のキャリア

～先が分からないことを前提としたキャリア形成～

◎池ヶ谷 佳寿子<sup>1)</sup>  
静岡市立清水病院<sup>1)</sup>

近年の技術革新は著しいスピードで進展しており、今後もさらなる変化が期待される。このような時代において、技術革新の恩恵を最大限に臨床に活かすための、微生物検査技師の能力向上が求められている。同時に、個々のライフスタイルに適した働き方が重要視される現代において、無理なく継続できるキャリア形成や、個人の生き方を尊重する職場環境の整備も必要である。こうした要素をバランスよく考慮しつつ、職場全体で持続可能なキャリアを築き、今後のさらなる技術革新に伴う変化にも迅速に対応できるよう、柔軟な思考と対応力を養うことが求められている。

## 【技術革新とキャリア形成】

筆者は、各資格を一定の知識と技術を習得した上で得られた検査結果を迅速かつ正確に臨床へ提供するための「準備」と位置づけている。そのキャリアの上に、日々の実践と学びを積み重ね、検査結果に付加価値をつけて臨床に繋げることが微生物検査技師の役割であり、患者への責任を果たすことだと考える。微生物検査は感染症診療において中心的な役割を果たしており、この10年間でその重要性は一層高まった。感染症検査キットや自動分析装置、質量分析装置、遺伝子検査装置などの導入により、従来の「過去」を伝える検査結果から、「今」を伝え、進行中の感染症診療に直結する結果を臨床に提供することが可能となったことが大きく影響していると思われる。微生物検査技師が、このような技術革新を駆使し、検査結果を咀嚼して正確かつ迅速に臨床に繋げることで、検査結果の価値は高まり、ひいては微生物検査技師の存在意義を高めることに繋がるのではないかと考える。

## 【ライフステージとキャリア形成】

従来、さまざまなライフステージはキャリア形成上の課題とされてきたが、現在では個々の生活を尊重した働き方やキャリア形成に対する柔軟な考え方が求められている。そして個々は、自身の職業人生の中で、育児や介護といったライフイベントが発生する時期は家庭やプライベートの優先度を高め、一段落した後は再度キャリアアップに注力するなど、優先順位を柔軟に変化させることが重要であると考えられる。また、それぞれのライフスタイルやライフステージを考慮したキャリア形成のためには、組織としてのサポートが不可欠である。短時間勤務や柔軟な勤務時間の設定、定期的な研修や教育プログラム、ライフイベントに直面するスタッフがキャリアを中断せずに継続できるようなスキルアップや再教育機会の提供など、組織側はそれぞれがキャリアを見つめ直し、成長する機会を提供することが重要である。こうした取り組みによって、微生物検査技師がライフステージに応じた優先順位の調整を実現し、長期的なキャリア形成を図ることが可能になるのではないかと考える。

## 【スペシャリストからマネジメント層へのキャリアチェンジ】

微生物検査技師という専門職であっても、管理職には経営やマネジメントに関する知識が求められる。管理職には、チームの運営、リソースの配分、戦略的および管理的な意思決定など、多岐にわたるスキルが必要ではないかと考える。専門知識の深化に加えて、マネジメントに関する研修や実際の業務での経験を通じて、マネジメントスキルを磨く機会も重要であると考えられる。

## 【最後に】

これからの微生物検査技師のキャリア形成は多角的な視点から考える必要がある。それぞれの微生物検査技師の多様な働き方を尊重しながら、技術革新で得られる恩恵を臨床に繋ぐためのキャリア形成を推進することが重要である。これにより、微生物検査技師が専門性を高めつつ、豊かな職業人生を送ることができるのではないかと考える。